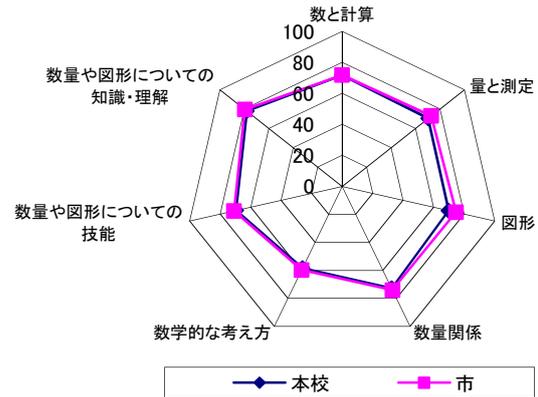


宇都宮市立御幸が原小学校 第3学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	71.8	71.8
	量と測定	70.4	72.8
	図形	69.8	74.7
	数量関係	72.9	74.1
観点別	数学的な考え方	58.5	59.7
	数量や図形についての技能	69.6	70.9
	数量や図形についての知識・理解	77.9	79.6



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	8割以上の問題で、校内正答率が市の正答率を上回った。たし算、ひき算やかけ算の筆算、わり算の計算はほぼ定着している。ただし、 400×7 の計算のしかたを説明する問題については、正答率が市の水準を上回ったものの、51.2%と低調だった。	四則計算については、計算技能に個人差が大きく表れるため、朝の学習や学年末のまとめの時間を有効に活用し、習熟を図っていく。引き続きドリルを中心に繰り返し練習していく。また、計算のしかたを説明する問題をクラス全体で考える機会を設け、練習する。
量と測定	平均正答率は、校内が市をやや下回っている。重さと長さの問題の一部において正答率が低く、中でも道のりを読み取る問題が特に低かった。しかし、時こくと時間の問題については、いずれも校内が市を上回り、高い定着度を示した。	重さと長さについて、理科や社会等の教科との関連を図りながら、繰り返し指導を行っていく。また、日々の生活の中でそれぞれの場面に合った単位を判断できるように、日頃の算数的活動を充実させ、理解を促す。
図形	全2問のうち、直方体の長さの等しい辺の数を求める問題については校内の正答率が市を上回った。一方で直方体を作るときに必要な面の形と数を問う問題については校内の正答率が市を下回った。	立体から必要なことを読み取る力が向上するように、面を写し取ったり作図したりといった操作活動を意図的に取り入れる。繰り返し学習していく中で、図形に対する理解を深めていく。
数量関係	平均正答率は、校内が市をやや下回っている。ぼうグラフの読み取りの問題と□を使った文章問題の理解に関する問題については、校内と市の正答率がほぼ同等であった。しかし、□を使って式に表わす問題については、校内の正答率が市を下回った。	□を使った式については、様々な問題のそれぞれの場面を絵や図、数直線等を用いて表す活動を繰り返し行っていく。学習の中で、四則計算のうちどれを用いるべきか、判断できる力が身に付くようにする。